

教育目標			生徒一人ひとりが主役となり、何事にも全力で取り組む学校									
重点目標			(1)授業改善を常時行い、「授業がわかりやすい」と答える生徒を増加させる。 (2)魅力ある学校づくりに努め、不登校生0をめざす。 (3)教育相談を充実させ、何でも言える関係づくりに努める。 (4)生徒が主体的かつ積極的に取り組める活動を計画・実施する。 (5)「報・連・相」の重要性を全職員が認識し、風通しの良い職場づくりを行う。									
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	生徒	保護者	職員	
学力の向上	1	基礎・基本の徹底と授業改善	・基礎的・基本的な知識・技能を習得する。 ・主体的・計画的に学習する態度を育成する。	・サクラ学習の時間を有効に活用する。 ・サクラ手帳を活用する。 ・週末課題や単元別の課題を継続的・計画的に出題する。		・サクラ手帳の活用等に関する授業アンケートで肯定的回答を70%以上にする。 ・サクラ学習に関するアンケートで、対象項目の肯定的回答を75%以上にする。	B 【成果】 サクラ学習の時間に取り組む内容が明確になったことで、肯定的回答が80%以上になった。 【課題】 サクラ手帳の導入については一年目であり、利用方法の周知徹底ができていなかった。	・サクラ学習の内容を授業内容の復習やテストにつながる内容にすることで、意欲的に取り組ませる。 ・サクラ手帳の書き方見本を提示することで、具体的に書くことをイメージさせる。また、週1回は、担任がチェックする。			④ ⑩ ⑪	
	2		・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教材研究を行い、指導方法の工夫や改善に取り組む。	・ふり返りを通じて熟考を促し、深い学びが得られる授業を実践する。 ・思考ツールやICT機器等を活用した授業を実践する。		・アンケートで肯定的に回答する生徒を80%以上にする。	A 【成果】 ・ふり返りシートや思考ツール等の活用に進化した結果、生徒アンケートの「先生の教え方にいろいろ工夫している」では肯定的回答が84%、「授業中に自分の意見や考えを発表できる場面がある」では肯定的回答が88%で目標を達成することができた。 【課題】 ・生徒アンケートの「授業はわかりやすく楽しい」では肯定的回答は68%で目標を達成できなかった。	・すべての生徒にとって楽しくわかりやすい授業の実践に向けて、ICT機器の有効な活用をすすめる。また、平成31年度より取り組んでいる「思考ツール」「ふり返り」等について、さらなる改善を行う。			⑤ ⑥ ⑦ ⑧	
	3	思考力・判断力・表現力の育成	・言語活動の充実を図り、より高いコミュニケーション能力を育む。 ・読書やNIEに取り組むことで視野を広げ、自分の考えを表現し、生き方につなげる力を養う。	・ブックトーク(シークレットブック)やビデオバトルで本の紹介を行い、読書に対する意欲を高める。 ・年度初めに図書室を利用した授業を行う。 ・NIEの活用により、思考力、判断力、表現力の育成を図る。		・各クラスの読書量調査で平均5冊以上にする。 ・貸出し冊数を年間8000冊以上にする。 ・「NIEに積極的に取り組み、自分の考えや意見を書いている」と肯定的に回答する生徒を80%以上にする。	A 【成果】 ・達成目標をすべて達成することができた。特に貸出し冊数は昨年より1000冊以上上回ることができた。 【課題】 ・図書館教育や読書活動をもっと積極的に生徒や職員に広報すべきだった。	・来年度は図書館教育の活動をさらに積極的に広報する。 移動図書や図書館まつり(学期に1回)の呼びかけのポスターを作成をする。			⑨ ⑩	
	4	特別支援教育の推進と充実	・支援体制を整える。 ・特別支援教育の内容を充実する。	・支援を要する生徒について外部機関や支援員と連携し、一人ひとりの理解を深める。 ・特別支援教育についての研修の場をつくる。 ・個別の指導計画を作成し、教育的ニーズに応じた指導を行う。		・外部の相談機関と連携し、支援についての研修を行い、生徒のニーズに応じた支援をする。 ・支援の必要な生徒に関して担任、教科担任、支援員との連携をより密に行い、情報交換の場をつくる。 ・生徒一人ひとりの個別の指導計画を充実させ、全教職員が情報を共有する。	A 【成果】 ・特別支援教育推進委員会を定期的に開催することができた。(月1回) ・年度当初に一人ひとりの生徒について情報交換することができた。 【課題】 ・個別の指導計画を、必ずしもスムーズには作成できなかった。 ・関係機関との連携をさらに強める。	・個別の指導計画の作成を前・後期の2回とし、スムーズに作成、ふり返りができるようにする。 ・特別支援コーディネーター、特別支援教育支援員を中心とした支援体制を強化する。 ・巡回相談などの関係機関と連携を引き続き行う。			⑫ ⑬ ⑭	
	5	社会への対応力を育む教育の推進	・系統的なキャリア教育を行う。 (1年) 自己を見つめ、適性を知る。 (2年) 職業体験を通じて将来を考える。 (3年) 自己実現のために適切な進路を選択する。	・中学3年間を見据えた進路指導を行う。 (1年) 社会人としてのルールやマナーを学ばせる。 (2年) トライやる・ウィークを通し、働くことの大切さを知り、将来の職業を見据えた進路について考えさせる。 (3年) オープンハイスクールなどを利用して、本人の興味・関心や適性に基づいた進路選択をさせる。		・キャリア学習ノートやプリントを活用し、自分の将来について考えさせる。 ・中学3年間を見据えた進路に関する情報を計画的に提供する。	B 【成果】 ・キャリア学習ノートやプリントを活用し、学年に応じた段階的な進路指導ができた。また、町の先生や職業講話など、地域の方々からお話を聞く機会を設け、自己の夢や将来について考えを深めることができた。(学年ごと2回) 【課題】 ・今年度の取り組みを来年度も継続していく必要がある。 ・来年度導入される「キャリアパスポート」を使った指導について検討する。	・3学年とも進路コーナーの掲示板を設けるなど、情報を共有し、3年間を見据えた進路指導の計画を立てる。 ・担当者間で引き継ぎや連携を強化する。 ・キャリアパスポートの活用について、職員間での学年ごとに検討を図る。			⑮ ⑯ ⑰	

豊かな心・健やかな体	6	問題行動への対応(生徒指導)	・組織的な生徒指導を行う。	・問題行動やいじめ事案に関しては全教職員で共通理解を図り対応する。 ・生徒指導委員会を定期的に開催し、研修会を開く。 ・巡回記録用紙の内容は、担任及び全教職員で共有する。 ・教育相談やいじめアンケート等で情報収集を行い、問題行動等の未然防止に努める。	・生徒指導委員会を開催し、情報交換を行う。(週1回) ・生徒・保護者・教職員のアンケートにおいて、対象項目の肯定的回答を80%以上にする。	B	〔成果〕 ・対象項目の肯定的回答が目標値を上回っていた。 ・生徒指導委員会の週1回実施や研修会などを通して情報共有し、生徒理解に繋がられている。 〔課題〕 ・生徒指導委員会での情報が各学年に充分に伝わらないことがある。より密に情報共有して、未然防止に努めたい。	・生徒指導委員会を実施する。(週1回) ・伊丹警察署、こども福祉課や川西こども家庭センターなどの関係機関と充分に連携する。	・対象項目の肯定的回答が目標値を上回ったことは良かった。さらに関係機関とも連携をとりながら問題行動の事前防止に努めてほしい。	⑨	⑦⑧	⑫ ⑬ ⑳
	7	不登校生徒への対応	・教育相談やQUを活用し、生徒理解をすすめる。 ・家庭との連携を密にとり、その情報を教師間で共有し、不登校生徒数の減少を目指す。	・教育相談やQUの結果を教師間で共有し、個々の生徒に対し効果的な対応を行う。 ・学校教育活動の中で生徒の変化を見逃すことなく初期対応に努め、家庭との連携を図る。 ・家庭環境を考慮し、関係機関、SC、SSWとの連携を図る。	・生徒アンケートの「先生は相談にのってくれる」の肯定的回答を全学年80%以上にする。 ・生徒アンケートの「学校で自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」の肯定的回答を全学年80%以上にする。 ・個々の生徒の登校日数や状況等を全日記録する。	B	〔成果〕 ・対象項目の肯定的回答が目標値を上回っていた。 ・教師間の共通理解と共有が良い形になり、部分登校や対話が増えた。 ・SCやSSWの相談が増え、生徒理解に努力する場面が増えた。 〔課題〕 ・2年生という時期に教師の想定を超えたことが起こり、対応しきれないことがある。 ・得た情報を活用しきれていないことがある。	・職員間の情報共有のルート整備(早期発見、早期対応のレベルアップ) ・関係機関、SC、SSWとの情報共有機会の増加(教師で対応できるレベルを超えた場合もできるだけ早く繋ぐため)	・対象項目の肯定的回答が目標値を上回ったことは良かった。 ・コミュニケーション能力を高め、ちょっとした雑談の中から生徒の困りに気づき、中間での連携をさらに密にしてほしい。	⑦⑨	④⑬	⑭ ⑮ ⑯ ⑳
	8	健康教育	・規則正しい生活習慣や食習慣を身につけ、健康管理能力を育成する。	・欠席調査を適切に行うとともに学級指導や保健だより等で健康に関する意識を高める。 ・教職員間で共通理解を図るとともに必要に応じて保護者との連携も密に図る。	・欠席理由が不明な生徒については、学年間で共通理解を図り、迅速に保護者に連絡する等の対応を行う。 ・学校衛生管理などを適切に行い、保体委員会の活動を充実させる。 ・現在課題となっている「早寝」についての取り組みを充実させる。	B	〔成果〕 ・月に一度の保健だより、臨時の保体委員会など健康に対する呼びかけができた。 ・スポーツテストを参考に体育の補強運動を工夫している。 ・コロナに対するアルコールの設置等90%以上の満足のいく評価であった。 〔課題〕 ・前年度の改善策であげていた保体委員会での啓発ポスター作りができなかった。(4月) ・「早寝」についての取り組みが掲示物の作成のみだった。	・呼びかけのさらなる充実を目指してホームページに保健だよりをあげる。 ・「早寝」について保体委員の呼びかけを行う。	・学校の目標としては、肯定的な評価が高かったので続けてほしい。 ・体を動かすことの楽しさや生活の中での運動を考えた生涯スポーツとしてのスポーツの親しみ方、運動の取り組み方等を考えていくきっかけも取り入れてほしい。	⑭	⑪	⑲ ⑳
				・教職員が給食に関する研修をおこない、安全に給食が実施されるようシステムづくりを行う。	・給食委員会の活動を充実させる。 ・時間や配膳ルール、食事のマナーを守り、給食を食べることができる。 ・配膳時や返却時の安全確認を徹底する。	B	〔成果〕 ・SAKURAグランプリを実施するなど給食委員が自主的に活動できた。 〔課題〕 ・給食委員の活動をより充実させたい。 ・クラスによってルール等にバラツキがあり、その結果時間に追われて不注意による食器の破損が多かった。	・給食委員会で呼びかけだけでなく、必要に応じて掲示物をも作成し活発な委員会活動に繋げる。 ・給食が始まるまでの教員向け研修、特に新転任者への研修を丁寧にを行い、共通理解を徹底する。 ・不注意による食器の破損をこれ以上増やさないようにする。	・目標値を達成しているだけでなく、生徒の自主的な活動を考えていこうとしていることが、評価できる。	⑭⑮	⑪⑫	⑳ ㉑
	9	安全教育	・安全指導の工夫改善をする。	・交通マナーとルールを守る意識を高めるため外部講師を招聘し講習会等を年1回以上行う。 ・登下校指導を定期的に行う。	・交通マナーとルールを守る意識を高める。 ・生徒アンケート「学校で交通マナーを教えてもらっている」の肯定的評価を80%以上にする。	A	〔成果〕 ・肯定的評価が80%を超えた。 ・1年生への自転車講習会を実施した。 〔課題〕 ・肯定的評価が学年によってバラつきがあった。 ・徒歩通学生徒への指導をもっと充実させる。	・肯定的評価80%以上をさらに続ける。 ・自転車通学生だけでなく、徒歩通学生への指導も継続的に行う。 ・自転車通学生への指導をきめ細かく行う。	・肯定的な評価が高かったことは良かった。 ・自転車通学については、地域の方から指摘される部分がまだあり、完全ではないようである。さらなるきめの細かさを求めます。	⑬	⑩	⑲
	10		・安全・安心の場を創造する。	・朝礼や終礼、集会などで注意喚起を行う。 ・防災教育の充実を図る。 (2学期) 1年:ハザードマップ作り 2年:EARTH職員による講演会 3年:HUG訓練 ・定期的に防災訓練を行う。	・各アンケートの項目での肯定的評価を80%以上にする。 ・防災マニュアルを局員会議や研修会で周知する。 ・Jアラートを活用するなど工夫した避難訓練を行う。	A	〔成果〕 ・アンケートの項目での肯定的回答は90%前後であった。 ・防災教育 1年:ハザードマップ作り 2年:EARTH職員による講演会 3年:HUG訓練 を実施できた。 〔課題〕 ・生徒用アンケートの2年生が肯定的回答が70%で他学年、他項目と比べて低かった。	・2年生を中心に学校で社会のきまりについて丁寧に教えていく。 ・引き続き防災教育を行う。 ・引き続き、防災訓練、学校だよりやHPを通して学校安全の取り組み等を保護者や地域へ周知するなど良い活動を継続していく。	・防災教育については、理念が実践されずばらしかった。さらに発展させてほしい。	⑦⑧ ⑫	⑧⑩	⑱ ⑲

開かれ信頼される学校園	11	豊かな心を育む教育の推進	・健全な心の育成をする。	・道徳教育の充実 「ローテーション授業」 「道徳研修会」 「人権研修会」 「LGBTの授業」 を実施する。	・生徒アンケートと教職員アンケートの該当する項目で肯定的評価を80%以上にする。 ・道徳の教科化に向けた研修を行い、全教職員でローテーション授業を行う。	A	【成果】 ・肯定的な意見が80%をこえていた。 ・道徳部会を週1回持ち方向性を定めることができた。 【課題】 ・人権教育を深めていく。 ・ローテーション道徳や、評価の方法など今後も検討すべき事項があり、協議を重ねていきたい。	・北中学校としてのローテーション道徳のあり方を確立する。 ・部会での協議を週1回行い、周知徹底を今後も継続する。 ・LGBTについて週1回の部会とともに、研修会を年に1度もち、理解・研鑽を積む。	・押しつけではなく、自分のことに置き換えて理解できるような機会をふやしてほしい。 ・根本にある人権教育を大切にしていって取り組みをしてほしい。	⑦		③①
	12	学校情報の発信	・学校(授業)を公開をする。	・学校通信やHP等で発信する。 ・土曜授業、オープンスクールなど定期的に行う。 ・PTAと協力して積極的にサクラメールを活用する。	・学校だより、学年通信などで生徒の活動時の写真や感想文などを毎月掲載する。 ・HPの閲覧者数の確認ができるよう定期的にカウンターを記録する。(目標値25万件) ・授業参観およびオープンスクールの参加者数を増やす。	A	【成果】 ・肯定的評価は90%以上であった。 ・学校だより、学年通信を毎月発信できた。 ・HPをほぼ毎日更新できた。(閲覧者数 約28万件) 【課題】 ・HPは3年生(一部)の発信にかたよっていた。毎日各学年の情報が発信されることが望ましい。	・各学年のHP担当が毎日声をかけ合い、挙げる情報の共有を行う。 ・全職員に協力を促し、公開できる写真を一つのフォルダーにまとめる。(情報発信の意識を高める)	・HPの更新や学校だより・学年通信は成果をあげている。これからも正しい情報を発信、伝えていくようにしてほしい。		⑮	③③ ③④ ③⑤
	13	施設・設備の管理	・施設・設備の管理や清掃活動を充実させる。	・定期的に安全点検を行い、適切に修理・修繕を行う。 ・行事前や学期末に1回大掃除を行う。 ・整美委員会の取り組みをさらに充実させる。 ・PTAと連携を図りクリーンアップ活動を実施する。	・安全点検を行う。(月1回) ・安全点検の結果をまとめ危険箇所を把握し、適切に修理・修繕を行う。 ・整美委員会で掃除道具の点検を行い、壊れているものを修理し、丁寧に扱うよう指導を徹底する。	B	【成果】 ・整美委員会で、掃除道具の扱い方を指導、点検・修理を行い、意識づけができた。 ・安全点検の結果をもとに、修理・修繕を行うことができた。 【課題】 ・清掃をしない人が目立ち、呼びかけをしても改善しない。 ・清掃道具を大切に扱うことを指導しているが、一部の生徒には、浸透していない。	・チェック表作成や、サクラグランプリを行い生徒主体で掃除をするようにする。(年2回) ・整美委員会だけでなく、係に協力してもらうなど皆で動くように呼びかけを行う。	設備の老朽化はあるが、修理・修繕が行われている。 ・校内は土足で、清掃に積極的に取り組みにくいのが、いつも清掃が行き届いている。さらに、やる気をもたせる声かけから、生徒が自分から清掃に向かうようにしている取り組みがすばらしい。	⑰⑱ ②②	⑨	③⑥ ③⑦

学校関係者評価総括
各項目、具体的施策のもと目標を達成しているように思う。
成果と課題も明確に示されているので、来年度に向けた改善策を、具体的数値目標を設定するなどして、さらに北中学校がよくなるように願っている。

次年度に向けた重点的な改善点 (学力の向上) 学びに向かう力を育てるために 1. サクラ手帳の活用 2. キャリア教育の推進 3. 教員の研修充実	(豊かな心、健やかな体) 自分を大切にすること心身を育てるために 1. 不登校生をなくす相談体制の確立 2. 体力の向上に向けた取り組み推進 3. 安全教育の充実	(開かれ信頼される学校園) 1. タイムリーで正確な情報発信 2. 安全点検による迅速な修理・修繕 3. 徹底した清掃活動
---	--	--

自己評価の基準
A: 目標を上回った
B: 目標どおりに達成できた
C: 目標をやや下回った
D: 目標を大きく下回った